

# 宮城県職業能力開発審議会答申（概要版）

# ―県立高等技術専門校の整備のあり方について―

## 1 はじめに

《～新時代を牽引する魅力ある「高等技術専門校」を目指して～》

富県宮城の実現に向けたものづくり産業の振興に対応した訓練の実施，産業界の需要に応える人材の育成により，修了生がものづくり企業の技術を底上げするリーダーとなって活躍できるような魅力溢れる高等技術専門校像が示されることを期待

## 2 職業能力開発の現状

### （1）職業能力開発を取り巻く社会状況

- ・生産年齢人口の減少と雇用形態の多様化
- ・自動車関連産業や高度電子機械産業等を中心としたものづくり産業の誘致・集積
- ・県内総生産額は9兆円を超える水準で推移
- ・景気の緩やかな回復基調を受け，県の有効求人倍率は高い水準で推移
- ・新型コロナウイルス感染拡大により，経済・産業，雇用への影響が懸念

### （2）課題

- ・ものづくり人材の教育・訓練機関における入校者の確保
- ・ものづくり企業の技術力・生産性の向上，販路開拓や取引拡大への支援が必要
- ・ものづくり産業への若者の関心を広げ，魅力ある進路として選ばれるよう取組が必要

## 3 整備の基本方針

### （1）特色ある高等技術専門校づくりの推進

- ・地域の産業実態等を把握しながら，職業系による特色を生かした高等技術専門校づくり
- ・訓練科毎の特色を検証し，新時代を牽引する魅力ある高等技術専門校として再生

### （2）効率的・効果的な職業訓練の実施

- ・労働力の需給や職種系による科目配置等を検討し，効率的な運営
- ・技術革新，情報化の進展等，時代のニーズに対応した訓練の実施

### （3）企業・地域ニーズに対応した訓練の展開

- ・知識・技能の高度化，複合化に対応できる訓練の実施
- ・地域に開かれた職業能力開発機関として，地域住民の技能尊重機運を醸成

### （4）新時代に向けた基盤整備・イメージ向上

- ・時代に即した施設・設備を整備し，基本から最先端の技術・技能を習得
- ・魅力ある校名（愛称）や適切な訓練科名の検討
- ・訓練風景や技能五輪大会の動画配信など若者が親しみやすい新たなPR手法の検討

## 4 高等技術専門校の役割

### （1）現状と課題

- ・入校率が下降傾向にあり，令和2年度は定員の5割と過去最低の水準
- ・修了者の就職率は95～96%台で推移し，100%の訓練科も少なくない
- ・技能検定や技能講習を行い，ものづくり人材の技能の向上に貢献

### （2）今後の方向

- ・入校率を上げていくため，効果的にPR活動を展開
- ・民間教育機関等との適切な役割分担
- ・在職者訓練，離職者訓練の充実強化
- ・企業ニーズの把握と，職業能力開発に関する情報提供・相談業務を拡充
- ・授業料の無償化などの負担軽減策について，他県の実施状況等を踏まえながら検討
- ・関係業界の協力を得てインターンシップを拡充
- ・技能検定の受講・各種競技大会への参加推進
- ・小中学生向けのものづくりイベント等の実施
- ・宮城県職業能力開発協会と連携し，技能検定や技能講習を実施

## 5 施設の配置

### （1）現状と課題

- ・入校者確保に当たっては，高等技術専門校の配置場所は非常に重要
- ・圏域毎の若年者の人口減少を見越した施設の規模や配置の検討は必須

### （2）今後の方向

- ・訓練内容や訓練環境を充実させ，新時代を牽引する魅力ある高等技術専門校を確立
- ・将来を見据え，現行の5校を1校に再編することが必要
- ・配置は，多くの学生が通学しやすい交通の利便性の良い地域
- ・場所は，多くの訓練生の利便性を考慮し，鉄道駅の近くに立地するのが望ましい
- ・寄宿舎の設置，アパート等の家賃補助，授業料の無償化などの負担軽減策を検討

## 6 訓練課程・科目の設定

### （1）現状と課題

- ・普通課程は，応募者・入校者数が大きく減少
- ・短期課程は，離職者等の多様なニーズに対応できるよう，訓練の充実が必要

### （2）今後の方向

- ・普通課程は，企業のニーズ，入校者数等を踏まえ科目の整理統合・充実を図るほか，技能検定や資格取得への一層の対応促進を検討
- ・科目設定に当たっては，他の民間教育機関などとの競合を考慮
- ・短期課程は，学び直しによる再就職に繋げるための科目など機動的・弾力的な科目設定
- ・在職者訓練は，夜間・休日開催など企業の要望に合致した訓練を実施
- ・離職者訓練は，地域性や対象者の属性を考慮した訓練科目を設定
- ・障害者及び外国人技能実習生への訓練について，ソフト・ハードの両面で必要な環境整備を検討
- ・ICTを活用したオンライン訓練の導入を検討
- ・遠隔地における訓練ニーズに対応できるよう，民間委託やサテライト等の実施を検討

## 7 指導体制の充実

### （1）現状と課題

- ・国家資格を有する職業訓練指導員による指導が必要
- ・技術革新や情報化の進展等に対応できる知識，技能を備えた指導員が求められている
- ・障害者や外国人技能実習生に対する指導体制の充実について検討が必要

### （2）今後の方向

- ・普通課程の1訓練科に，複数の指導員を配置
- ・指導員の意識改革や指導範囲の拡大を図るための研修を体系的に実施
- ・最新技術を利用している民間企業等から人材の派遣を受けるなど，外部講師を活用

## 8 施設・設備等の充実

### （1）現状と課題

- ・建物の老朽化が著しく，イメージ低下，入校率の低下の一因
- ・訓練機器も古く，企業の訓練ニーズに対応した訓練実施に支障
- ・施設面では障害者への対応が遅れている

### （2）今後の方向

- ・早急な施設整備
- ・企業の協力を得ながら時代の変化に即した機器等の早急な整備・更新
- ・障害者等に配慮した施設・設備の環境整備
- ・以上について可能な限り一体で整備を行い，県民の誰もが認めるものづくり産業の最前線の人材育成機関として，新時代を牽引する魅力ある高等技術専門校を実現

## 9 整備期間

令和3年度から概ね5年間を目標として，計画的に整備